





図 SDGsのための科学と政治の架橋と組織化—国際的俯瞰

動を組織化することが今後の大きな課題である (図) 6。

### 3 SDGsと21世紀の科学技術の新しい責務と方法

理工系中心の国際科学会議 (ICSU、1931年発足) と国際社会科学協議会 (ISSC、1950年発足) は、分野を越えてSDGsなど複雑化する地球規模課題の解決へ貢献するために、2018年に合併することを決定した。ICSUは歴史的に、科学の政治からの独立、質と健全性の確保を重視してきたが、SDGsなど地球規模課題の解決に向けて、国際政治との協働に大きく舵を切ったことは近代科学史上注目すべきである。

INGSA 会長グルックマンはサイエンス誌で、

科学と政治の間の一筋縄では行かない対話と助言、信頼の醸成の難しさをのべている<sup>7</sup>。彼は筆者に「自分はずっと科学者だが時にアーティストにもなる」と語ったことがある。また、国連STI for SDGs フォーラムを牽引するコルグラーザー (アメリカ国務長官元科学顧問) も、同じ難しさを“art of science”と表現している<sup>8</sup>。アメリカの政治学者ペルキーは、こうした科学的助言者を、“pure scientist”を越える“honest broker of policy options”という新しい概念で整理し、これは世界的に普及している<sup>9</sup>。また、ドイツ・ベルリン科学アカデミーは指針で「科学的政策助言における知識と、学術的な知識とは同じものではない。前者は後者を超越するものである。なぜなら助言の知識は、科学的な基準を満たした上に、さらに政治的に効果のあるもの

でなければならない」としている<sup>3</sup>。

2013年に改定された日本学術会議の「科学者の行動規範」は、「科学者は、客観的で科学的な根拠に基づく公正な助言を行う。助言の質の確保に努め、同時に科学的知見に係る不確実性及び見解の多様性について明確に説明する。科学者は、科学的知見が政策形成の過程において十分に尊重されるべきものであるが、政策決定の唯一の判断根拠ではないことを認識すること」としている。筆者らはこの改定作業に協力したが、当時ある国の科学顧問から文章を作るだけでなく、科学界にこの趣旨を徹底し実践できるかが大きな挑戦だと指摘された。3.11から7年、わが国科学技術界が本格的にSDGsに対応するに当たって、この鋭い指摘を想起する必要があると考える。

### おわりに

コルグラーザーは筆者に「SDGsは21世紀人類への大きな贈り物であるとともに、科学技術イノベーション・システムを変革する大きな機会を与えている」とのべたことがある。国連のSTI for SDGs フォーラムは2018年6月に3回目を迎え、「議論から実行」の段階に入る。これに対して日本の科学技術界がどう行動するか。STI for SDGsはSDGs for STIでもある。大学改革、ファンディング制度、評価、課題設定、異分野連携、ファイナンスを含めた新しい産学連携など、SDGsへの対応は、科学技術の意味を再考しSTIエコシステムを改革する絶好のチャン

スであろう。また、学生や若い研究者、エンジニアにとって夢のある多くの新しい挑戦課題を示唆している。

2019年は、各国首脳によるSDGs進捗状況レビュー、日本がホストするG-20、TICAD (アフリカ開発会議) と、首脳レベルの科学技術に深く関係する政治課題がつづく。さらに、世界の科学技術政策の柱である「ブダペスト宣言」<sup>10</sup> から20周年であることも想起しておきたい。

### 参考文献

- 1 “Global Sustainable Development Report (GSDR 2015)”, The Economic and Social Council, United Nations, 2015. “Supporting the Sustainable Development Goals: A Guide for Merit-based Academies”, IAP-InterAcademy Partnership, 6 December 2017.
- 2 『科学的助言』、有本建男、佐藤靖、松尾敬子、吉川弘之、東京大学出版会、2016.
- 3 「科学者の行動規範—改訂版」、声明、日本学術会議、2013年1月25日。戦略提言「政策形成における科学と政府の役割及び責任に係る原則の確立に向けて」、科学技術振興機構・研究開発戦略センター、2012年3月。“Rebuilding Public Trust in Science for Policy-Making”, T. Arimoto and Y. Sato, 1176-1177, Science, 7 September 2012.
- 4 “Scientific Advice for Policy Making – The role and responsibility of expert bodies and individual scientists”, OECD, 20 April 2015.
- 5 “Science advice to governments: an international perspective”, Peter Gluckman, Nov 2016, Tokyo. “INGSA Manifesto for 2030: Scientific Advice for the Global Goals”, Draft for Consultation, INGSA, P. Gluckman et al. Nov. 2017.
- 6 “Five years after Fukushima : Scientific advice in Japan”, Y. Sato and T. Arimoto, Palgrave Communications, June 2016. “Building the Foundations for Scientific Advice in the International Context”, Y. Sato, H. Koi and T. Arimoto, Science and Diplomacy, AAAS, September 2014.
- 7 “The science-policy interface”, P. Gluckman, Science, 2 September 2016.
- 8 “The Art of Science”, W. Colglazier, Science and Diplomacy, 6.30.2016.
- 9 “The Honest Broker—Making Sense of Science in Policy and Politics”, Roger A. Pielke, Jr. Cambridge University Press, 2007.
- 10 UNESCOとICSUが主催した世界科学会議 (1999年、ハンガリーの首都ブダペストで開催) において、21世紀の科学の責務として、「知識のための科学」にくわえて、「平和のための科学」、「持続的発展のための科学」、「社会の中の、社会のための科学」が宣言 (「科学と科学的知識の利用に関する世界宣言」) された。